**2023 年 7 月改訂（第 4 版）
*2016 年 6 月改訂（第 3 版（新記載要領に基づく改訂））
医療機器認証番号 14700BZZ00164000

機械器具 51 医療用嘴管及び体液誘導管

管理医療機器　輸血・カテーテル用ストップコック 35375042
（輸液ポンプ用ストップコック 35375022）

ＪＭＳ三方活栓

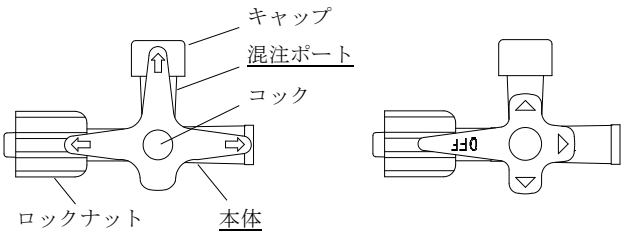
再使用禁止

【禁忌・禁止】
再使用禁止

**【形状・構造及び原理等】

**〈構造図（代表図）〉

1. スリーバータイプ　　2. ワンバータイプ



**〈原材料〉

部位	原材料
本体※	ポリカーボネート、ポリプロピレン
コック※	ポリエチレン
キャップ	ポリプロピレン

**※ 潤滑剤としてシリコーンオイルを塗布する場合がある。

〈仕様〉

項目	性能
耐圧性	-20～150kPa
引張強度	15N

〈原理〉
本品は、輸液セットや輸血セット等のラインに接続し、液体の流向又はガスフローをコックの回転操作による三方の流路の開閉によって制御するものである。本体の流路とコックの流路が重なり合った状態では流路が開放され、本体の流路とコックの流路が重なり合っていない状態では流路が閉鎖される。

【使用目的又は効果】

本品は、輸液セットや輸血セット等のラインにおける液体の流向又はガスフローを制御するために用いる器具である。輸液ポンプ及び輸血ポンプを併用するラインに用いる場合がある。

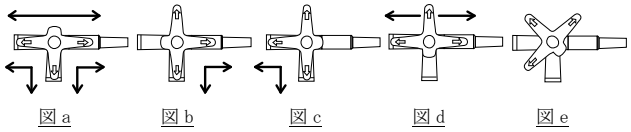
*【使用方法等】

1. 輸液セットや輸血セット等との接続
(1) 包装から本品を取り出す。
(2) 輸液セットや輸血セット等のオスコネクタ及びメスコネクタと本品を確実に接続する。
(3) コックを通液するラインの方向に回す。

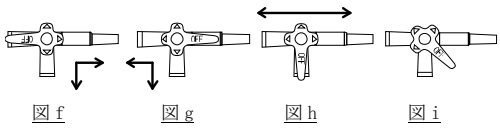
2. 混注ポートからの混注
(1) コックを操作して混注ポートを閉じ、キャップを外す。このとき外したキャップは、汚染のないよう清潔に保つ。
(2) シリンジ又は輸液セットや輸血セット等のルアー部を確実に接続した後、コックを操作して混注ポートを開く。
(3) 混注後、必要に応じ生理食塩液等でフラッシュを行い、混注ポートを閉じる。
(4) キャップを装着する。

**3. コック向きによる流路方向
下図の矢印方向に流路が開きます。全方向の流路を閉じる場合は、図ｅ又は図ｉのように、コックを 45° の位置にします。

**(1) スリーバータイプ



**(2) ワンバータイプ



〈使用方法等に関連する使用上の注意〉

1. 開封時はキャップの外れや緩みがないことを確認してから使用すること。
2. 他の医療機器と接続する場合は、次の事項に注意すること。
(1) 過度な締めつけをしないこと。[接続部が外れない、接続部が破損するおそれがある。]
**(2) テーパ部に薬液等が可能な限り付着しないように注意すること。[接続部に緩み等が生じるおそれがある。]
**(3) ロックナットがある場合は、ロックナットの傾きや回転不足に注意し、確実に接続すること。[接続不十分な場合、外れ、液漏れ及び空気混入が生じるおそれがある。]
**3. 混注ポートは混注又は吸引前に消毒用アルコール綿等で消毒すること。[細菌混入のおそれがある。]
4. 混注ポートより持続投与を行う場合は、オスコネクタがロックタイプのものを使用すること。[接続部が外れるおそれがある。]
**5. 他の医療機器を混注ポートに接続する場合は、次の事項に注意すること。
**(1) 接続前に混注ポート側の流路を閉じること。[薬液等が意図しない方向へボーラス注入されるおそれがある。]
**(2) 混注ポートの本体を把持すること。[十分な力が加わらず接続できないおそれがある。]
**6. シリンジ等で混注又は吸引を行う場合は、ゆっくりと操作すること。[破損、液漏れ、空気混入が生じるおそれがある。]
**7. 血管造影剤等の高圧注入には使用しないこと。[液漏れ又は破損が生じるおそれがある。]
**8. 他の医療機器を混注ポートから外す際は、本体を把持し、他の接続部が緩まないように注意すること。
*9. 混注後は必要に応じて生理食塩液等でフラッシュを行うこと。[薬液の一部が残存するおそれがある。]
**10. シリンジを混注ポートに接続したままの状態で放置しないこと。[他の混注ポートから薬液を投与する際、シリンジ内に薬液が逆流し、シリンジの押子が外れるおそれがある。また、シリンジ内の薬液が過量投与されるおそれがある。]
11. コックに対し、引き抜く方向に過度な負荷を加えないこと。[コックが外れ、液漏れが生じるおそれがある。]

11550Z01

12. ワンバータイプを使用する場合は、コックを 180°以上回転させないこと。[コックが浮き上がり、液漏れが生じるおそれがある。]

*【使用上の注意】

〈重要な基本的注意〉

1. 使用中は本品を患者の下敷きにしないこと。[破損等により、液漏れや空気混入等が生じるおそれがある。]
2. 使用中は本品の破損、接続部の緩み及び薬液漏れ等について、定期的に確認すること。

*3. 本体がポリカーボネート製のとき、脂肪乳剤及び脂肪乳剤を含む医薬品、ヒマシ油等の油性成分、界面活性剤又はアルコール等の溶解補助剤等を含む医薬品を投与する場合及びアルコールを含む消毒剤を使用する場合は、本体のひび割れについて注意すること。[薬液により本体にひび割れが生じ、血液及び薬液漏れ、空気混入等のおそれがある。特に、全身麻酔剤、昇圧剤、抗悪性腫瘍剤及び免疫抑制剤等の投与では、必要な投与量が確保されず患者への重篤な影響が生じるおそれがある。なお、ライン交換時の締め直し、過度な締めつけ及び増し締め等は、ひび割れの発生を助長する要因となる。]

4. ひび割れが確認された場合は、直ちに新しい製品と交換すること。

**〈不具合・有害事象〉

その他の不具合

空気混入、漏れ、破損、欠け、固着、外れ、緩み、亀裂、過量投与

【保管方法及び有効期間等】

〈有効期間〉

3 年［自己認証(当社データ)による］

包装の使用期限欄を参照すること。

**【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

製造販売業者

株式会社ジェイ・エム・エス

問い合わせ先

TEL 0120-923-107